彩の山　埼玉支部報 第 31 号

《題字　松本敏夫》

【目　次】

《雲取山荘応援キャンペーン！》報告　1
日本山岳会 120 周年記念事業企画　2
　全国山岳古道調査の対応について　大山光一
慈光寺古道（広見道）を歩く　松本敏夫　2
山名考－毛呂山町の「牛頭山」　松本敏夫　5
９月度山行　燧ケ岳　朝井紀久子　7
１０月度山行　爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳　古川史典　9
大久保春美記念　第 10 回ふれあい登山　高橋　努　12
１１月度平日山行　高川山　浅田　稔　13
新入会員自己紹介　林　信行　15
日本全国温泉巡り（第２回）　早川光治　16
〃　こぼれ話　竹内タミ子　17
One Point アドバイス(その 10)　17
　「コロナ時代の新しい登山様式」　平川陽一郎
遠山元信・元支部会員のご逝去を悼む　小原茂延　18
事務局からのお知らせ　19

《雲取山荘応援キャンペーン！》報告

事務局長　林　信行

埼玉支部ではコロナ禍で大変ご苦労されている埼玉を代表する雲取山荘様(支部会員 新井信太郎様・新井晃一様）に少しでもお役立て頂けたらと支部の皆様に「雲取山荘応援キャンペーン！」をお願いして参りましたが（7 月締め）31 名の方々からご賛同いただき 20 万円の支援金が集まりました。

ご賛同いただいた会員の方々、大変有難うございました。

8/25(火)、大山支部長、松本前支部長、事務局林の 3 名で支部長交代のご挨拶も兼ね、秩父市の新井様のお宅にお届けして参りました。

雲取山荘もこの夏再開されましたが、コロナ禍への対応に大変苦慮され、新しいスタイルで登山客を受け入れていらっしゃるお話を伺い、頭がさがるばかりでした。　是非、支部会員の皆様もご利用お願いします

日本山岳会１２０周年記念事業企画
全国山岳古道調査の対応について（ご案内）

支部長　大山光一

日本山岳会１２０周年記念事業として、全国３３支部並びに多数の会員が調査に参加し、また地元の古道研究者の協力を得ながら、２０２５年の発表を目指して、「全国山岳古道調査」を実施することになりました。

目的は、古道を文化的、歴史的、地理的（科学的）な側面から探索、調査し、記録、保全につなげる。また、失われつつあるものの調査を行って記録を残し、公開することによって、日本及び地方のアイデンティティを再認識することに寄与する。

現在、道路の拡充、インフラの整備、災害、更に山村の過疎化によって昔、官道、街道、生活道、参拝道などとして、多くの人々に利用された古道はいたるところで破壊され、崩れ、藪に埋もれて、人々の記憶から消え去りつつあります。道は支配者側からの歴史からとらえられることが多いのですが、それは道の持つ意味の一部であって、実はその時代に生きていた人々すべての生きた証です。

そのような古の人々が生きた証を発掘し、記録に残して、未来の人々に伝えていくことが必要だと思います。そこで古道を調査し、資料を作成して公開することが、それぞれの地方に住む人々が自分のルーツを考え、地元を見直し、それぞれの場所に対する愛着を再発見してもらう機会になります。

この作業は、古道が時間の経過とともにさらに失われていく前に行なう必要があります。これまでも各地で古道について調査が行われ、報告がなされていますが、全国に展開する一つの団体が総力を挙げて行ったことはないはずです。

目標は、それぞれの地方に残る古道を実際に歩いて調査し、さらに文献にもあたり、その情報を広く一般社会や後世に残るような形で公開します。また、人々に新しい山の楽しみ方を提案し、地元に貢献すると共に、各支部の活性化と本部、支部間の垣根を超えた連携強化、さらには日本山岳会の知名度向上、日本山岳会の会員増につなげたい。最終的には、後々まで残る書籍としての報告（ガイドでもよい）を出版し、ネットで広く公開することが必要だと考えています。

埼玉支部としては、日本山岳会１２０周年記念事業の実施に鑑み、１０月１４日開催の支部委員会で協議した結果、会員の有識者によるプロジェクトチームを構成し、対象とする古道の絞り込み、スケジュール、予算、等を作成し、次年度の活動計画に展開していきたいと考えています。
会員諸氏におかれましては、プロジェクトチームからの協力要請に関して、ご尽力を賜りたくお願いを申し上げます。

慈光寺古道（広見越）を歩く

評議員　松本敏夫

慈光寺は関東地方きっての古刹（七十五坊を擁す）で、約 1300 年の法燈を守る寺院として国宝「慈光寺経」や坂東三十三観音霊場第九番札所としても知られる。かつては巨大な蔵王権現が祀られていたが残念ながら焼失（昭和 60 年）してしまった。役行者の訪問や岩や泉や木に数々の伝説が残され、源頼朝が戦勝祈願した寺院でもある。新編武蔵風土記稿の比企郡平村の条には「慈光寺

慈光山の上にあり、麓より登ること九丁餘なり、當寺を都幾山一乗法華院と號す。開山は廣恵菩薩なり、・・當寺昔は大伽藍にして、何れの頃よりか、台・蜜・禅の三宗を兼學せしむと云、治承の頃は右大将頼朝の祈願所なり、寺領寄附ありし等の事は、『東鑑』にも見えたり、・・今縁起一巻あり、當寺開基以前白鳳中に、役小角始て此山に登り、」と記されている。伝説の慈光寺道を知ることになったのは「増補ものがたり奥武蔵」（神山弘・新井良輔共著、金曜堂出版）に、越生から津久根、堂山、山入、小溝、西川原を経て平村に出る道は、かつて源頼朝が慈光寺を参詣するための表参道であったとの記述による。慈光寺道は他にも、小川から松郷峠を越える道（写経の和紙を運んだ？）、岩殿観音から笛吹峠や明覚を経由する道、吾野から橡峠を経て椚平に至る道、秩父から大野峠を越えて西平（ときがわ町）に向かう道などが考えられる。古道の道端や分岐や峠には古い地蔵尊や馬頭尊などが残されており、多数の慈光寺道の存在を裏付けるものと推測される。

越生から続く慈光寺道は、旧鎌倉街道上道から分かれ、源頼朝所縁の越生・法恩寺を経由し、黒山三瀧入口の交差点につくと、かつて関八州に強大な勢力を誇った越生の本山派修験・山本坊があった黒山への道標「**黒山三瀧道**」がある。前述の「ものがたり奥武蔵」に石碑に関する詳細な記述「正面　日本無双　左黒山三瀧道　二里、江戸　正木龍塘書、側面　東都　新吉原講中、建之　尾張屋三平、裏面　慶応元乙丑歳　六月吉晨　助力当村中」がある。存在感のある石碑は慶応元年に越生出身の尾張屋（新井）三平により建てられたことがわかる。

越生梅林と黒山との分岐に「**梅林三叉路の道標石仏**」の標識と石仏がある。大きな石標には、「右　志かう道　二里、左　子ノ権現　三里廿九町、高山不動　二里半　大平山三滝　一里十五町、元治二乙丑歳二月吉祥日、裏面　新井三平建之　助力当村中」と記されている。黒山三瀧碑と同様に新井三平が建立した道標で、生活や信仰の道として、慈光寺と大平山（黒山三瀧の奥院で役行者像が設置されている）・子ノ権現・高山不動との分岐を示している。

最勝寺は源頼朝の祈願所の一つで、山門横の**六地蔵**の上部に刻まれている大日如来は智拳印を結んでいるようだが、残念ながら頭部の一部が欠けていた。大日如来の左右に「左あまでら江」、「右ぢかう」とあるが、「あまでら」は大鱗山天龍寺のことで子ノ権現の別当寺である。今は山門内に遷されたが、六地蔵もまた古くから慈光寺への道しるべであった。

あじさい山公園と大クスの分岐に「大菅の地蔵尊」の標識と 4 体の石仏群（2 体の地蔵尊、如意輪観音、馬頭尊）がある。奥武蔵研究会の会誌「奥武蔵 31 号」に新井良輔氏が寄稿した「慈光寺みち」には、馬頭尊の下部に「左ハ ぢかうみち 安永三午天正月吉日 武州入間郡上谷村上分施主山入組中」の文字が刻まれていると記されている。地元の人々が往来の安全を祈願して設置したことがわかる。一方、行基作と伝わる大きな地蔵尊に関しては「その昔、源氏の祈願所であった慈光寺へ行く為、頼朝公はこの分かれ道で休息をし、慈光寺へ納めるべき地蔵様を置き忘れてしまった。その地蔵様はそこに留まって永久に慈光寺道を指さしてくれる。」との頼朝伝説を紹介している。天平（行基）と鎌倉という時代に隔たりはあるが、千年以上の歴史を刻んだ古道には思いもよらない伝承が残されるものである。

景勝寺の六地蔵

大菅の地蔵尊

大築山（城跡）と六万部塚とを結ぶ稜線の鞍部（峠）の右側にベンチが二個設置されている。右折すると、竹林があり標識「大附 - 大築城跡・椚平 - 大楠・山入、平成二十五年三月、ときがわ町設置」の分岐がある。椚平方面に緩やかに下りながら進むと、丸彫りされた馬口印を結ぶひときわ立派な三面馬頭尊立像があり、高さは人の背丈ほどもある。ここは広見峠（広見越）で、馬頭尊は都幾川と越生との境にあり交通の要所で、通行の安全を祈願する近隣の人々の信仰の厚さが石仏の大きさに現れているようであった。基壇に「文化四年十月吉日・施主拾四人講中？」がうっすらと認められる。標識「上谷・梅林 - 大築城跡・椚平 - 大附・西平」に従い鬱蒼とした樹林に覆われて昼なお薄暗い峠を大附・西平方面に下る。

広見峠の馬頭尊

緩斜面の歩きやすい道を 10 分ほど下ると車道で、標識「西川原バス停 - 大附方面 - 大築城跡コース入口」の分岐につく。車道を左に下ると民家の庭先や道端に、多種類のあじさいが今は盛りと花を咲かせていた。バス通りにでて、右に下ると西川原バス停がある。氷川沿いの神明神社、全長禅寺入口を過ぎると程なく萩ヶ丘小学校の交差点である。萩日吉神社は、木曾義仲（嵐山町の鎌形八幡宮に産湯を汲んだとされる清水が伝えられる）の家人が伝えたとされる流鏑馬が有名である。比叡山延暦寺と日吉大社との寺社関係が、慈光寺と萩日吉神社にも反映されているように見える。西川原から氷川沿いの道に、慈光寺や子ノ権現・高山不動・越生などを示す古い石仏・石祠や道標が見つからなかったのは残念

であった。

ときがわ町西平の宿の交差点を直進して慈光寺坂を上る。女人堂（九丁目の丁目石がある）を過ぎて車道を進むと慈光寺入口と書かれた道標があり、車道とは別の歩道が数か所ある。車道ができる前の旧表参道と思われるが、丁目石等は見当たらない。仁王門があったとされる青石塔婆群から女人道の石仏に送られて慈光寺につく。帰路は慈光寺入口のときがわ町観光案内図があるインフォメーションセンターからせせらぎバス停経由越生駅に戻る。　　松本敏夫（令和 2 年 6 月）記

山名考　－毛呂山町の「牛頭山」について－

評議員　松本敏夫

和名倉山と白石山のように､名付けられた地域により山の呼び名が違うことは珍しくない｡また、代馬岳と白馬岳のように時代の変遷に伴い山名の表記が異なることもある。毛呂山町滝ノ入にある牛頭山は東隣の竜ヶ谷山と同様に鶴ヶ島ゴルフ場に隣接した里山である。奥武蔵登山詳細図（池田和峰作成、吉備人出版）では牛頭山（ごんずうさん）、山と高原地図「奥武蔵・秩父」（昭文社）では午頭山（ごんずうさん）と記され、「牛」と「午」の違いがある。一方、国土地理院の 2 万 5 千分の一地形図「越生」には午頭山（ごずさん）の表記があり、「午」を用いて呼び方も少し異なる。

牛頭山全景

登山口の堰堤

更に、日本山名辞典（三省堂）には「ごんずさん：午頭山、標高 312m、入間郡毛呂山町」と記されている。この山名表記の混乱は何に由来するものであろうか。「牛」は「うし」で、「午」は十二支の「うま」であり、明らかに意味は異なる。

山名が信仰に由来する例として､愛宕神社があるので愛宕山､石尊大権現が鎮座するので石尊山、蔵王権現が祀られて蔵王山、飛龍権現の祠が山頂直下にある飛龍山、など数多く知られている。毛呂山町の牛頭山も表記と呼び名から、牛頭天王又は祇園社が祀られていたので牛頭山というのが一般的な解釈と推測される。修験道辞典（東京堂出版）の牛頭天王の項には「祇園精舎の守護神、一般には疫神とされ、薬師如来が行疫疾鬼を降伏するため現れたものである。」とある。牛頭天王は日本固有の民間信仰で、京都の祇園社・八坂神社の流れを汲む疫病除けに効力を示す神（神仏習合時代の信仰なので神でもあり同時に佛でもある）と信じられている。全国的には現在でも、疫病がはやる夏に「茅の輪くぐり」や「蘇民将来の護符」など、疫病除けの祇園祭･天王祭が行われている。新編武蔵風土記稿の入間郡・瀧野入村の条には「こんづう山　上り十五六町の山にて、是も雑木生

茂れり、村の南のかたにあり」の記載があり、明治以前から地元ではよく知られていた里山である。しかし、風土記稿には山頂に牛頭天王・祇園社が鎮座していたか否かには全く触れられてない。

奥武蔵研究会の会誌である「奥武蔵」246 号に藤本一美氏の「神ノ倉山（大高取山）・牛頭山」と題した寄稿には「5 万分の 1 地形図川越図幅（明治 40 年測図大正 13 年修測図）は『午頭（ゴンズ）山』、2.5 万図越生図幅の昭和 32 年測図では『午頭（ゴンズウ）山』・・・『毛呂山町役場刊行の 1 万分の 1 毛呂山全図（昭和 54 年）によれば『牛頭山』の山名と北面に牛頭、南西面に西牛頭の山字名が表記してある。標高 313.2 メートル峰。以上で微妙なズレが気になる。・・・地形図表記の午頭山は、牛を「ご」と読ませる困難さ、教育的配慮によって午を採用したのではなかろうか。本来は祇園精舎の守護神で、体は人で頭が牛の地獄の獄卒（亡者を苦しめる鬼）を祭る牛頭天王信仰の山（牛頭山の表記がふさわしい)。それが、明治元年の廃仏毀釈、明治 39 年の神社合祀令によって信仰が衰退し、名のみ残したと推察する。」と興味深い内容が記されている。

樹林に覆われた登山道

午頭山山頂の標識

日本山名辞典（三省堂）には、権現山、観音山、虚空蔵山など民間信仰に基づいた夥しい数の同一山名が収録されているが、「午頭山」は毛呂山町の一座のみである。ただし、牛頭山（うしずやま）として広島市安佐北区の標高 689m の山が収載されているが、牛頭天王に関連する記載は見当たらない。前述の風土記稿にも牛頭天王社の記載がないため、牛頭山の山名の由来となる根拠がいま一つ明確でないのが残念ではある。しかし、地元で慣れ親しんできた貴重な山名や呼び名のため、地元の表記に従うのが最優先されるべきと考えられる。そこで毛呂山町産業振興課に牛頭山の表記について「牛頭山」か「午頭山」なのかを問い合わせたところ、現在、毛呂山町で出しているハイキングマップでは「牛頭山」となっているが、将来は「午頭山」に修正したい、との見解である。出来れば牛頭天王に所縁の「牛頭山」表記を残して欲しいと念願するばかりではあるが、地元でも正式な山名が決まらないという、なんとも興味深い比企の山であった。

毛呂山町の牛頭山は山頂の木に括りつけられた「午頭山」標識以外に全く道標等は無いが、怪しげな踏み跡と赤テープを目印に、東北に延びる尾根を山頂めがけて約 30 分で登れる。残念ながら山頂に牛頭天王社は確認できなかった。また、里山に特有の山の神や十二社等の社・祠もない。植林のために撤去された可能性もあるが、登山としては最も登りやすい北東尾根が古の参詣道ではない可能性もある。危険な個所は見当たらないが、鬱蒼とした樹林に覆われた登山道は視界が利かず、山頂からの展望も全く期待できない。隣接するゴルフ場から漏れてくるプレイヤーの声や音を聴き、読図しながら山登りを楽しむには最適な里山である。　　松本敏夫記（2020 年 10 月）

９月度山行　「尾瀬・燧ケ岳登頂日帰りトレッキング」に参加して

会員　朝井紀久子

期日：2020 年 9 月 19 日（土）
場所：福島県　燧ケ岳
参加者：10 名
行程：7:00(集合)尾瀬沼山峠– 8:50 長英新道分岐–12:30 燧ケ岳山頂 -
14:00 熊沢田代 - 16:00 尾瀬御池

（YAMAP 山行ログより）

2020 年では 2 月以来の埼玉支部山行になりました。元々は会津駒ケ岳を併せ 1 泊 2 日の計画でしたが、コロナウィルス感染予防に対応される宿泊施設のご事情もあり、燧ケ岳のみの日帰り山行に変更となりました。

当日は雨予報が若干好転し曇りでした。眺望はガスに阻まれましたが、冷たい秋風を感じる中、湿原の草紅葉、時々開く青空や、雲間に見える尾瀬沼、一瞬現れた至仏山の姿など印象的でもありました。下山途中からは小雨模様となり、岩場ガレ場や濡れた木道など足場に注意しながら、疲労度合いにも配慮しながら、一方では帰りのバス時刻も考慮しながらの下山となっていたと思います。

尾瀬沼山峠 7:00 集合

2 班の皆さん

大江湿原の草紅葉と木道

長英新道分岐（1 班）

休憩をとりながら

雲間から尾瀬沼

1 つ目のピーク：
ミノブチ岳

2 つ目のピーク：俎嵓
(まないたぐら) 2,346m

燧ケ岳頂上：柴安嵓
(しばやすぐら) 2,356 m

撮影隊長の背後に、雲が流れた
青空の中、至仏山が一瞬！

今回のどっきり。左岩上が本道。
右はヤブ旧道？

岩場ガレ場も多い下山。
この後小雨に。頑張り所。

私は、入会後 2 回目の山行参加となり、全てが興味深く、楽しく参加させて頂きました。有難かったのは、参加者の皆さんが色々会話して下さり楽しかったことです。

下山時にひとつハプニングがありました。本道から逸れヤブ道に入ってしまいました。その入口にはピンクリボンもありました。この時、先導の方が会話しながらだった事も一因として、直ちに現場で、ベテラン会員の指導の下、反省会を行いました。私は今回皆さんとの会話がとても楽しく嬉しさがありました。また一方で、このように安全の為に注意喚起して下さる事にも大変有難く思います。それぞれ皆さんに感謝しています。私も是非今後の山行では、その両面を大切にしながら、参加させていただきたいと思います。今回も実りの多い体験でした。またぜひ宜しくお願いいたします。ありがとうございました。

《尾瀬ヶ原》晴れていたらこんな眺望が見られたでしょう (2012. 10. 14/Y. I)

１０月度山行　北アルプス（爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳）

評議員　古川史典

今回は、コロナウイルスが蔓延し、登山も御多分に漏れず対応しなければならず、埼玉支部としてのガイドラインを作成した。又冷池山荘のガイドライにも従い「０密を基本」に 2 班に分け検温も行いました。天気は 2 日間曇り一時通り雨でしたが、剱、立山、薬師、槍、穂高と北アルプスの山々と遠く富士山もかろうじて望むことができ、紅葉も 2500m付近で色付き、秋を感じることができました。1 日目爺ケ岳、2 日目風の強いガスの中、鹿島槍ケ岳南峰に全員元気に登頂することができました。帰路は、急峻な赤岩尾根を慎重に降り大谷原経由信濃大町駅で解散となりました。

1、日　　程　　10 月 3 日（土）～4 日（日）一泊二日

2、場　　所　　北アルプス　爺ケ岳（2669.8m）鹿島槍ケ岳（2889.2m）

3、コースタイム

3 日（土）7：00 信濃大町駅集合→ジャンボタクシー→7：30 柏原新道登山口→11：30 種池山荘 12：15→13：05 爺ケ岳(南峰)→14：50 冷池山荘（泊）

4 日（日）6：25 冷池山荘→8：20 鹿島槍ケ岳（南峰）→10：05 冷池山荘 10：30→10：50 赤岩尾根分岐→14：55 大谷原→ジャンボタクシ→15：30 信濃大町駅解散

2020 年 10 月 5 日　CL 古川史典

紅葉の柏原新道

種池山荘から望む爺ヶ岳(南峰)

爺ヶ岳(南峰)

爺ヶ岳(中峰)

爺ヶ岳から望む鹿島槍ケ岳

鹿島槍ヶ岳

下り始めの赤岩尾根

紅葉が見ごろの赤岩尾根

紅葉が見ごろの赤岩尾根

急峻な赤岩尾根

高千穂平

中ころの赤岩尾根

１０月度山行　北アルプス（爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳）その２
参加者からの感想

2020 年度２回目の山行です。初の班 SL の任務を任され、緊張して臨みましたが、班の先輩方（東さん、CL の古川さん）の多大で自由（？）なフォローにより、結果としては大変楽しく、景色も素晴らしく、一生忘れられないであろう登山となりました。皆様ありがとうございました！

生田詳子

爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳の埼玉支部山行は、最高でした！紅葉がとても素敵で、稜線歩きの風景も格別でした。本当に行けて良かったです。更に歩行速度管理についても、支部の方々に色々教わることが出来て、とても勉強になりました。次回も楽しみです。

朝井紀久子

山登りを改めて考える山行でした！！その不安は的中し、下りの赤岩尾根の鎖場が過ぎた辺りで足を滑らし笹薮に落ちたが、笹をつかんで止まる。やっとの思いで登山道に戻る。こんな時に一人だったら？どうしたんだろう・・？

東　洋子

過去季節も違い何度も登った山。一緒に行く仲間が違えば「山の見え方」「山での思い」も違う。今回はそんな下見も含め 2 度目の爺ケ岳と鹿島槍ケ岳でした。

古川史典

今回は雷鳥にはお目にかかれませんでしたが、紅葉は真っ盛り。今年は酷暑でしたが、しっかりと秋を感じることができました。皆さん健脚で、スムーズな山行でした。ありがとうございました。

青木　正

初めての爺ヶ岳と鹿島槍は、見事な紅葉と若い新入会員のパワーをもらった楽しいものでした。登山靴が滑りやすかったのは誤算でしたが、長い赤岩尾根も、膝を痛めず下りきれてよかったです。しゃべりすぎたことは大いに反省しています。

轟　涼

11 年振りの柏原新道。歩きやすい登山道です。種池山荘界隈では、前回同様、チングルマの大群生が待っていてくれました。今回は新入会員も参加していて、若いパワーを感じました。息の合った仲間同士の山行は、楽しみも倍増します。曇りがちでしたが紅葉も眺望も堪能しました。雷鳥に会いたかったですが。

稲越洋一

大久保春美記念　第１０回ふれあい登山

副支部長　高橋　努

4 月 5 日の実施日に向けて、昨年の秋にはコースの下見も終え、日程もハイキングコースも決定し、2 月には募集チラシも完成、障がい者と埼玉支部会員への募集も開始し、3 月には参加者名簿も完成、万全の準備を済ませていました。そこへコロナの襲来です。当初は 4 月には収まるだろうなどと高を括っていましたが、とんでもない事態に拡大していきました。春の開催は断念したものの、秋には終息するだろうとの観測に期待して 11 月 8 日への延期を決断しました。ところが、ところがでした。夏には第 2 波到来となり秋の開催についても、さあ、どうする、となってしまいました。埼玉県障害者スポーツ協会（スポ協）にお伺いすると障がい者のスポーツ大会は、春はもちろん全て中止、秋もどんどん中止が決まっているとのこと。ただ、スポ協としては野外活動であるふれあい登山は楽しみにしている方々も多く、できれば何とか開催できないだろうかというご意向

でした。日本山岳会本部からもコロナ禍での登山のあり方の指針が出されていました。そこでこの指針に沿って、登山のコースはワンランク落とす、集合や休憩、行動中での三密状態を惹起させない、体調チェック・マスク・消毒などには万全の対策を期する、等と工夫を尽くした計画を考え、清登さんと酷暑の中、大汗をかいてコースの下見もしたうえでスポ協に提案しました。

スポ協のご賛同を得て募集に入りましたが、付き添いは１名のみと抑制的な募集であったにもかかわらず障がい者と付き添いで 37 名と従来と変わらない参加申込をいただきました。全体人数規模を 70 名以内としたため埼玉支部の皆さんには新たな参加募集はせず、4 月開催参加予定者のみに呼びかけました。

こんな経緯で 11 月 8 日に総勢 66 名の参加者で開催いたしましたが、当日は暖かい好天で、コースも危険箇所無し、時間も余裕たっぷりであったこともあって皆さんゆったりとハイキングを楽しんでいただけました。それでも例年通り全盲の方の参加もあり、一部ではきつい介助も必要でした。今回はスポ協の副会長も参加され、たまたま地元にお住まいの障がい者施設長の方がたくさんの飯能銘菓四里餅を差し入れしていただいたり、また思いがけず美杉台の紅葉が綺麗だったことなど嬉しいこともありました。

解散後の有志反省会でも「今回はやって良かったね」の声もあって、まさにやれやれでした。皆さんのご協力に感謝するばかりです。

コロナ禍の動向も不透明なため、来年も 11 月に開催予定です。是非ともご参加、ご協力のほどお願いいたします。特に入会間もない会員の皆さんには、とても貴重な素晴らしい経験になりますので是非ご参加をお勧めいたします。

社会貢献委員会　高橋　努

１１月度　平日山行　高川山

会員　浅田　稔

高川山・平日山行に初参加

実施日　：　2020 年 11 月 12 日（木）

メンバー：　９名　CL：高橋努　SL：東洋子　今山健　米山英三　野口勝志　鴨志田隼司
安瀬善一　小島千代美　浅田稔

行程　　：　初狩駅発　９:４５―１１:５５　高川山山頂　１２:３５―１４:３０　禾生駅

今回が入会後初めての山行となります。７０歳を過ぎてからの入会、更に新型コロナの感染が広がり、自粛をしていて体力にも不安を感じていたところ、平日山行で高川山行きという経験のある

コースの計画案内があり参加を申し込みました。初狩駅集合は電車が人身事故の発生で少々遅れが出たが、全員無事集合。皆に顔合わせの後、初めての参加の人は感想文を書くことを言われ、やや困惑するがこれも普通の事だろうと納得する。

９:１５初狩駅出発。天気は晴れ、風もなく絶好の登山日和。最初は、広い道をそれぞれのペースで行く。最初は話し相手もなく、なんとなく皆の話に耳を傾けながら歩き雰囲気を感じて徐々に話に加わる。約２５分でトイレのある登山口で休憩。登山道は女坂を登る。急傾斜の斜面もジグザグで緩やかな落ち葉の土の歩き易い道だ。男坂と女坂の合流地点付近から振り返ると木立の間から富士山が望める。今日のメンバーの年齢は６６歳から８８歳までで平均は７８歳超え。その年齢に応じた程良いペースで１２時前には山頂に到着。

山頂からの富士山を目で楽しむ。写真を撮るが正午の太陽ではうまく撮れない。山頂は狭く、夫々が自分の場所を確保しながらの昼食。ここで小島さんから皆に温かいコーヒーを入れて頂く。２Ｌの水のかつぎ上げに感謝と、体力の余裕に感心する。私は如何に重さを控えようかに窮々としているのに。下りも道は良い。分岐に来るたびそっちの道はどこへ行く等と話しながら進む。紅葉は自分としては今一歩だったが、下りで一本紅葉が太陽を透かして赤く輝いていて、これに満足する。途中、時々リニア新幹線の試験走行音が聞こえるが目をやった時はもうトンネルの中か見えない。道路は古宿で川を渡り、峠を一登りして 14：30 に禾生駅に到着。登り下りとも歩行ペースも休憩のタイミングも休憩時間も余裕を持ってやっていただいた感じで疲れを感ぜず山行を終える事が出来た。

登山終了後、車で帰る安瀬さんと用事で帰る鴨志田さんを除く７人で大月駅前で懇談会。コロナ禍のおり飲食はどうかとこれまで自重してきたが初参加でみんなと親しくなる機会を逃すわけにはいかない。ビジネスホテルのレストランに検温とアルコール消毒をして入る。客は我々だけで、他のお客さんはいないのでコロナ感染の心配も少なく安心して行える。ここで、参加した皆さんとも親しく話ができ、過去の山行の話、これからの行事など山岳会の話をたくさん聞くことができた。この雰囲気ならこれからも楽しくやっていけそうだと感じた。山行や行事も色々なレベルのものがありそうなので自分に合ったものを探しながら積極的に参加したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

新入会員　自己紹介

事務局長　林　信行

《高橋和美さん　会員番号 16678》

10 月より埼玉支部に入会させて頂きました高橋和美です。
入会の動機は登山知識がなく安全面で心配がありました。
周囲には山を共に歩く相手が居なく、1 人で登山の一歩が踏み出せませんでした。
それでも 20 歳代の頃、職場の先輩にお供した鳥海山や白馬岳の景色、空気感が忘れられず、心の片隅にいつも残っていました。
山を歩みながら学びたい！と色々検索していた所、貴会に辿り着いた次第です。
面接して頂いた、大山様、林様のお話には心動かされ、山への思いは益々膨らみ、自分自身の希望を持つ事が出来ました。
初心者ですが、これから山の事を沢山学んで様々な登山で感動したい！生涯山ライフを楽しんでいきたいと思っています。
宜しくお願い致します。

《坂倉理恵さん　会員番号 17783》

このたびは、山岳会に入会させて頂きありがとうございます。私のようなド素人が由緒ある会にいいのだろうかと心配でなりませんが、今までよりももっと山を楽しめたらいいなあと思っています。
私は浦和で生まれ育ち、現在も在住しています。山を始めたきっかけは、50 を過ぎて二度、富士山に登ったことです。今は月に 1～2 回位の頻度で山行し、好きな山は、混んでいない日の高尾山と木曽駒ケ岳です。経験が少ないので行きたいところだらけです。超初心者なのでどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

《石井和春さん　会員番号 16666》

9 月に埼玉支部に入会致しました　石井和春　と申します。
年齢は、61 歳　家は、埼玉県志木市で、東上線柳瀬川駅が最寄り駅です。
本格的登山は、20 代後半に社会人山岳会に入ってからで、かれこれ 35 年くらい経ちましたが雪山、沢登、岩登りなど色々と経験した中で 30 代から山スキーに興味が向き、最近はテレマークスキーで緩い傾斜の雪山徘徊を好んでます。
入会申し込みが 2 月でまさかこんなコロナ騒ぎになるとは予想もしていなかったため、
入会時期がまずかったかなーと思いましたが、今は早く終息することを願うばかりです。
少しずつ参加していけたらと思いますので宜しくお願いします。

日本全国温泉巡り（千葉県・茨城県）第２回

会員　早川光治（泉舟）

【千葉県】

房総半島外房の烏場山（カラスバヤマ）は花嫁・花婿街道の登山道があり、真冬でも暖かく、裾野には菜の花や水仙などが咲きほこり、心地よいハイキングが楽しめます。

鵜原理想郷鵜原温泉「鵜原館」の鍾乳洞の様な洞窟風呂は、戦争中の防空壕で、最奥から太平洋が望めます。

半島随一の秘湯が野島崎近くの南房総白浜温泉「林景荘」で伊勢海老が堪能できます。

内房ではスリルを味わえる鋸山があり、麓には金谷温泉「かぢや旅館」があります。

岩井海岸周辺は滝沢馬琴の南総里見八犬伝ゆかりの地で、富山（トミサン）の山頂から大島を見るとこれほど近いのかと実感でき、快晴なら富士山も見られます。

また房総のマッターホルンと言われる伊予ヶ岳も近くにあり、下山後は岩婦温泉で汗を流せます。

岩井温泉「ろくや」は、美味の海鮮料理が次から次へと出ます。ご主人に満腹ですと言ったら、まだ半分ですと言われた。満喫できる小さな宿で、浴室も６つあります。

また、近くのビワ産地のそばに一日４回内湯が変色する不思議な弁天温泉もあります。

君津市の濃溝温泉千寿の湯の所に､関東地方人気スポット第１位になった朝日が♡のマークに輝く美しい濃溝の滝があります。

【茨城県】

筑波山は男体山と女体山からなる日本百名山で一番低い山ですが、元旦に登ったときは山頂近くで雪に降られましたが、中腹にある筑波山温泉で体を温めることができました。

加波山は山岳信仰の霊場なので、山歩きも変化に富んでいて楽しいです。

一合目の加波山神社に加波山瀧（日本百名水）があり、美味しい水が飲めます。

麓に伝正寺温泉「桜井館」があり、夕食は鶏肉フルコースです。宿の前に伝正寺という赤穂浪士で有名な浅野家発祥の地の菩提寺があり、庭に殿様夫妻の銅像が立っていて、大石内蔵助他四十七士の多くが茨城県出身と分かりました。

袋田温泉の近くには袋田の滝（日本三名瀑）があり、月居山に登れば、上から眺められます。

岡倉天心で有名な六角堂の近くに五浦温泉「五浦観光ホテル」があり、露天風呂からは太平洋が一望できます。

北茨城の磯原温泉「山海館」は、部屋から海釣りができます。

湯の網温泉「鹿の湯松屋」の魚料理キンキは忘れられない味です。

国民宿舎で人気１位になった鵜の崎温泉は、すべての部屋がオーシャンビューで、太陽が太平洋に昇る朝日が見られます。

真冬に大洗温泉「かんぽの宿」に泊まれば、アンコウ料理フルコースが味わえます。また、ここに行くなら大宮駅西口ソニックシティ西側から宿直通バスが出ています。

支部報 30 号「日本全国温泉巡り（埼玉県）第１回で、「太陽寺鉱泉」の記載ですが、正しくは「大陽寺鉱泉」です。ここに訂正をいたします。

日本全国温泉巡り（埼玉県）第２回・こぼれ話

総務副委員長　竹内タミ子

支部報 30 号の温泉巡りで紹介された、奥秩父の秘境とも言える様な所に大陽寺がありました。国道 140 号線から荒川の支流大血川沿いに車で 10 キロ程の山道を緩やかに上ると、古びた立派な本堂、道場、宿坊、13 佛堂等が建てられており住職は、50 代で京都の禅寺で修行をされて三峰口駅からの送迎、接待、精進料理と全て１人でこなされていました。

私達は７０代３人で行きましたが、30、40、50代と割と若いグループ３組程で初日は、まず写経から始まりお風呂は鉱泉の露天風呂、3 人でいっぱいでしたが森の中で気分爽快でした。夕食前に読経があり、精進料理をいただいた後は、法話、談話会後、部屋割りが決まり就寝でした。

2 日目は読経、道場にて瞑想、禅の修行後、縁側でお粥と精進料理をいただき、自然と向き合って何とも言えない 2 日間でした。

そこで分かった事が大陽寺から 2 時間程で霧藻ヶ峰に行ける事を知り、山好きの友人 3 人と再度行き大陽寺に車を置かせてもらい往復し、禅の修行をして参りました。

安心・快適登山のための One Point アドバイス（その 10）
「コロナ時代の新しい登山様式」

会員・日本山岳ガイド協会認定登山ガイドⅡ　平川陽一郎

皆さま、お元気にお過ごしでしょうか。

自粛中の前回は、山に行けない時にも登山体を保ちましょうというテーマで書かせていただきました。

高い山に行かない時期が 2 カ月続くと、私も思った以上に体力が低下していました。

体力回復と山のコロナ対策確認の為に、夏は 4 週連続アルプスクラスに出かけて来ました。

山小屋でも、コロナ対策にかなりの温度差を感じました。

感染予防は、一人一人がコロナを正確に知り、正しく恐れる事が大事なことだと思います。

コロナ時代の新しい登山様式と言うテーマですが、山も町中も基本は同様に飛沫感染と接触感染リスクを考えられる限り少なくする事につきます。

交通機関でのマスク着用と顔を触る時や食べ物を食べる時にはマイ除菌剤で手の消毒を行いましょう。
登山中は、飛沫感染リスク外の間隔を開いていればマスクは無くても良いです。
多くの人が触るハシゴ・鎖・木の根等に触れた手で顔を触らず、触る前には手の除菌をして下さい。
ハシゴなどで最長 2 日間、コロナ菌が検出された報告がありました。
団体登山の場合、飛沫感染リスク回避の為には、休憩は 3 人ずつ少人数に分かれて休憩する事で感染リスクを減らしましょう。
食べ物の受け渡しやおすそ分けは、接触感染リスクが有りますので、当面の間は NG です。
山小屋とテントサイトは要予約、予め予約表を持参する事で感染リスクを減らせます。
内部では就寝時も含めてマスク着用、就寝する枕と布団を包むシーツは必携です。
もちろ、山小屋やテント内での大声での会話は厳禁です。登山者に分かり易い行動規範は、今までとは真反対の清潔些事を行う事で感染リスクを減らしましょう。

遠山元信・元支部会員のご逝去を悼む

会員　小原茂延

本年 7 月に逝去された遠山元信氏の訃報は 7 月 15 日の夜に京都からの新幹線車中で、所属する資料映像委員会の担当理事である清水義浩氏からの電話で知りました。清水理事は三角点マニアで、以前、遠山さんと地図関係の集まりで一緒になったことがあったという話が出たことがあり、私と共通の知人と覚えていて連絡してくれたようです。

帰宅してＰＣを開くと、元埼玉支部の梅本知栄子女史(アンナプルナⅢ峰遠征隊の隊員・カメラマン)からも、「悲しい知らせを・・・」と遠山さんが 7/14 に亡くなったとの訃報が入っていました。彼女は遠山さんの指導で三角点探訪に頑張っていました。
埼玉支部には同好会に「陸地測量部」があり、遠山さんは副部長でしたが実質的に企画や読図山行、時に講演会なども仕切っていました。初めて例会で会った時から意気投合して、山のこと、地理のこと、登山史など話が尽きないほどでした。それからまだ 6 年という短い付き合いでしたが、例会、読図山行、講習及び講演会などを通じた内容の濃密さは今迄の山仲間とは比較にならないものでした。会報も「陸測部報」として支部報にひけを取らないほどであり、当時支部長の松本敏夫氏他、多彩な書き手が居て感心したものです。

遠山さんは登山史にも明るく、山岳会黎明期の大先達についても話題となったことも多く、その見識も確かなものでした。私が埼玉県旧鳩ケ谷市にある観音院で見た小谷三志という富士講中興の祖(富士山が女人禁制だった江戸時代に高山たつ女を伴ったことでも知られる)の墓について話をすると、たしか鵜殿正雄の遠縁にあたる人であると教えられました。　　調べてみると鵜殿正雄は日本山岳会が探検登山を盛んに行っていた頃、信州小県郡長瀬村にあって日本人登山家として前穂高岳の初登頂、次いで前穂高岳～北穂高岳～槍ヶ岳初縦走、さらに天狗のコル～奥穂高岳往復、同コルから西穂高岳に初縦走を成し遂げ、小島烏水ら発起人達を唸らせた人物ながら、あまり知られていないのは残念なことです。（現在「会報」に投稿すべく小文としてまとめている）その頃、私は新ハイキング誌に時々随想めいたものを投稿していたので、遠山さんが鵜殿正雄の生涯を書いた「孤高の道しるべ」(上條武著)の抜粋コピーを送ってきて、同誌に書いて欲しい旨のメールを戴き、2017

年 12 月号(新ハイ誌の市販最終号)に掲載されたことがありました。

遠山さんは、三角点の本を出していて、「日高市の三角点」「埼玉県の三角点」が国会図書館にあるとのこと。絶版で私は見ていないのですが、若い頃から三角点に関する調査研究に熱心で、一等三角点研究会発足についての話も、今西錦司に始まり坂井初代会長、大槻雅弘現会長、上西勝也氏や飯島某氏のこと、新ハイキングクラブの全国一等三角点探索などについてお互いの情報を交換したりの会話を楽しんだものです。

今年の４月中旬に当方から遠山さんに電話をして元気に会話が弾んだことを思い出すだけに、その後体調が悪化して他界されたということが信じられませんでした。　　合掌

事務局からのお知らせ

事務局長　林　信行

Ⅰ.

埼玉支部会員　在籍者数及び異動

2020 年 11 月 1 日現在

会員	126 名	準会員	11 名	計	137 名

【入　　会】

会　員			準会員		
16666	石井 和春（志木市）	7 月			
16678	髙橋 和美（比企郡）	10 月			
17783	坂倉 理恵（さいたま市）	10 月			

【退　　会】

会　員			準会員		
12985	南波 克行	6 月			
7703	菅野 弘章	7 月			

Ⅱ．　2020 年度　埼玉支部 11 月～3 月今後の予定

月	日・曜日	担	摘　　要	場　　所	開始時間
11月	８日（日）	支	大久保春美記念・第 10 回ふれあい登山	飯能市・龍崖山	９：００
	１１日（水）	支	第８回支部委員会	浦和コミセン	１８：３０
	１２日（木）	山	平日山行	高川山	
	１５日（日）	広	『第 31 号埼玉支部報』発行		
	２９日（日）	自	大高取山自然観察会	越生町・大高取山	
12月	９日（水）	支	第 9 回支部委員会	浦和コミセン	１８：３０
	１２日（土）	山	忘年山行	城峯山	
1月	１３日（水）	支	第 10 回支部委員会	浦和コミセン	１８：３０
	１６日（土）	山	新年山行	官ノ倉山	
	２３日（土）	安	安全登山講演会	中止	
2月	6 日（土）～7 日（日）	山	冬山山行	四阿山（案）	
	１０日（水）	支	第 11 回支部委員会	浦和コミセン	１８：３０
3月	１０日（水）	支	第 12 回支部委員会	浦和コミセン	１８：３０
	１５日（月）	広	『第 32 号埼玉支部報』　発行		
	２７日（土）	自	「埼玉の自然を知ろう」シンポジウム		
	１３日（土）	山	ウエルカム山行	筑波山	

２０２１年度

4月	１０日（土）	総	埼玉支部総会・懇親会	埼玉会館	１３：３０

1）凡例：支→支部委員会　山→山行委員会　安→安全登山委員会　自→自然保護委員会
　　社→社会貢献委員会　広→広報委員会　総→総務委員会

2）原則定例会議日：　支部委員会　　→毎月第２水曜日 18：30　　浦和コミセン
　　山行委員会　　→偶数月第１月曜日 18：30　　浦和コミセン
　　自然保護委員会→毎月第２月曜日 18：00　　浦和コミセン
　　安全登山委員会→奇数月　第一火曜日　　浦和コミセン
　　社会貢献・広報・総務の各委員会→不定期

3）埼玉支部年度予定は、変更もありますので事前にＨＰ・各委員会に確認・お問合せ下さい。

Ⅲ. 『埼玉支部設立 10 周年記念誌』

P. 76 に歴代役員　監事・評議員の記載漏れがありました。

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
監事	岸裕子	岸裕子	宮川美知子	宮川美知子	宮川美知子	中村直樹	中村直樹
	宮川美知子	宮川美知子	岸裕子	岸裕子	岸裕子	朝日守	朝日守
評議員	選任なし	選任なし	選任なし	石橋正美	石橋正美	石橋正美	石橋正美
2017	2018	2019					
中村直樹	中村直樹	中村直樹					
朝日守	龍久仁人	龍久仁人					
石橋正美	石橋正美　野村孝義	石橋正美　野村孝義 古川史典					

Ⅵ.　【支部山行のご案内】

忘年山行（城峯山　1037.7m）　下山後、皆野駅前にて軽く忘年懇親会

日時　12 月 12 日（土）

集合場所・時間　　皆野駅前（秩父鉄道）　AM.10 時 20 分

参加申込　林　信行　（山行委員会）

申し込み締め切りは 12 月 6 日（日）まで

takenoko001@gmail.com　　080-2256-4829

新年山行（官ノ倉山　344m）　下山後、小川町「自然処玉井屋」にて新年懇親会

日時　1 月 16 日　（土）

集合場所・時間　　東武竹沢駅（東武東上線）　A.M.　9 時 00 分

参加申込　　中嶋　信隆（山行委員会）

申し込み締め切りは 1 月 8 日　（金）まで　募集人員　24 名

nnakas23@ad.reitaku-u.ac.jp　　090-2746-0695

四季の山―冬山（四阿山 2,354m）（案）

日時　　2021 年 2 月 6 日（土）～7 日　1 泊 2 泊

集合場所・時間　　北本駅西口→A.M.8 時　若葉駅 A.M.7 時

参加申込　山崎　保夫（山行委員会）

申し込み締め切りは 1 月 15 日　（金）まで　　募集人員 20 名

and66294@kca.biglobe.ne.jp　　090-1549-1841

【編集後記】

支部報愛称【彩の山】について
埼玉支部報の愛称を募集に 6 名の方から 16 題のご応募をいただきました。
ご応募いただいた方々、大変有難うございました。10 月度の支部委員会において竹内タミ子会員の「彩の山」が選ばれました。題字は松本敏夫 前支部長にお願いしました。埼玉の輝かしい山々を思わせるに相応しい愛称です。これからも更に『埼玉支部報』皆様に親しんでいただけますよう、ご協力よろしくお願いいたします。　(N)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報　第 31 号　2020 年 12 月 6 日発行
発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部　支部長　大山光一
事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方
電　話：080-2256-4829　　Email: stm@jac.or.jp
埼玉支部ホームページ：http://www.jac.or.jp/saitamasibu/index.html